

JACLaP WIRE No. 107 (2008年6月3日発行)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No. 107 です。

===== << 目次 >> =====

【Lab CP 原稿募集のお知らせ】

【事務局からお知らせ】

会員動向 (2008年5月29日現在数 707名, 専門医 535名)、
新入会員、所属その他変更、退会会員、本年度の行事予定のお知らせ、
各種セミナー報告、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、
今年度会費振込のお願い

【新規掲載項目】

MDA-LDL

涙液中総IgE定性

===== << JACLaP WIRE >> =====

Laboratory and Clinical Practice (Lab CP) の原稿を募集いたします

～自薦・他薦ともに大歓迎します～

日本臨床検査専門医会の会員皆様におかれましてはご存知のように、情報・出版委員会ではLab CPを年間2冊発行させていただいております。本誌は、これまで、春季大会、セミナー等の記録原稿を主体としておりましたが、今後は(正確には26巻2号より)、専門医会の皆様方にご興味を持っていただける、または、日ごろの検査室業務に役立つテーマを選んで特集号形式とする方針を立て、常任幹事会でもご承認いただきました。

早速、26巻2号は、「よりよい検査室管理をめざして」というテーマを設定したいと委員一同考えております。また、原稿執筆者を会員から広く公募することといたしました。自薦、他薦を問いません。本テーマに関して、自ら原稿執筆を希望される先生、また、執筆をお願いしたい先生がおられましたら、表題と著者を下記あてに、6月30日までにメールでお知らせ下さい。なお、原稿執筆者は会員を原則とさせていただきますが、強いご要望や適切な理由がありましたら、この限りではありません。

日本臨床検査専門医会 学術・情報委員会 Lab CP担当：近藤 成美

E-mail : storia@med.juntendo.ac.jp

なお、原則として、他薦の場合でも、原稿の依頼は学術・情報委員会から
お願いし、推薦者のご希望がある場合を除き推薦者名は出さないようにさせて
いただきます。また、自薦・他薦ともに、学術・情報委員会から、表題に多少の
修正をお願いする場合があることをご承知下さい（もちろん、最大限にご希望を
尊重させていただきます）。多くの先生方からのお知らせをお待ちしております。

日本臨床検査専門医会 学術・情報委員会

委員長：矢富 裕

Lab CP担当：近藤 成美

===== << JACLAP WIRE >> =====

【事務局からのお知らせ】

会員動向（2008年5月29日現在数 707名 専門医 535名）

【新入会員】

窪田 良次 先生：香川大学医学部附属病院輸血部

砂川 恵伸 先生：日本大学医学部病理病態学系病理学分野

坂本 輝彦 先生：東京女子医科大学東医療センター検査科

覚野 綾子 先生：明和病院臨床検査部

藤島 正浩 先生：近畿大学医学部奈良病院放射線科

山根 徹 先生：山梨大学医学部人体病理

松永 彰 先生：福岡大学医学部臨床検査医学講座

北澤 淳一 先生：黒石市国民健康保険黒石病院小児科、輸血療法管理室

山下 理子 先生：徳島赤十字病院病理部

小池由佳子 先生：東大病院検査部

長井 篤 先生：島根大学医学部附属病院検査部

今井 康文 先生：青梅市立総合病院臨床検査科

岡田 泰昌 先生：慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター内科

堀内 啓 先生：NTT東日本関東病院臨床検査部

村瀬 貴幸 先生：羽島市民病院

【所属・その他変更】

桑島 実 先生：旧 香川県立中央病院 副院長
新 (退職)

佐竹 宣法 先生：旧 香川県立がん検診センター 検査科医長
新 徳島県立中央病院検査診断科 医長

西郷 勝康 先生：旧 神戸大学病院輸血部 副部長
新 姫路獨協大学薬学部 教授

松野 一彦 先生：旧 北海道大学医学部保健学科 教授
新 北海道大学病院検査・輸血部 部長
北海道大学大学院保健科学研究院 教授

吉河 康二 先生：旧 九州大学生体防御医学研究所附属病院検査部
新 独立行政法人国立病院機構別府医療センター臨床検査部 部長

真治 紀之 先生：旧 岡山大学病院中央検査部
新 医療法人光南台クリニック

島松 一秀 先生：旧 公立八女総合病院病理検査科
新 大牟田市立総合病院病理検査科 部長

櫻林郁之介 先生：旧 自治医科大学さいたま医療センター 教授
新 上野原市立病院

藤田 信一 先生：旧 金沢大学大学院医学系研究科血液情報統御学 准教授

- 新 金沢大学医薬保健研究域保健学系病態検査学 教授
- 伊藤 章 先生 : 旧 国際医療福祉大学熱海病院 教授・検査部長
新 国際医療福祉大学病院臨床検査部 教授・検査部長
- 上原 由紀 先生 : 旧 聖路加国際病院内科感染症科
新 順天堂大学医学部感染制御科学/総合診療科
- 松永 彰 先生 : 旧 福岡大学医学部心臓・血管内科 准教授
新 福岡大学医学部臨床検査医学講座 教授
- 森山 耕成 先生 : 旧 福岡病院内科
新 中村学園大学栄養科学部栄養科学科
- 神辺 眞之 先生 : 旧 広島市立舟入病院 院長
新 公立世羅中央病院
- 田部 陽子 先生 : 旧 順天堂大学医学部臨床検査医学講座 非常勤講師
新 順天堂大学医学部臨床検査医学講座 准教授
- 三井田 孝 先生 : 旧 新潟大学医歯学総合病院検査部 講師
新 順天堂大学医学部臨床検査医学講座 教授
- 中村 康寛 先生 : 旧 聖マリア病院病理部・臨床検査部 部長
新 保健医療経営大学 教授
- 富永 真琴 先生 : 旧 山形大学医学部臨床検査医学 教授
新 医療法人社団みゆき会 糖尿病内科クリニック 院長
- 小野 順子 先生 : 旧 福岡大学医学部臨床検査医学 教授
新 医療法人財団華林会村上華林堂病院

【退会会員】

- 川越 裕也 先生 : (医療法人青山会川越診療所) (2008年2月27日)
- 梅田 遵 先生 : (うめだ内科クリニック) (2008年3月7日)

【本年度の行事予定のお知らせ】

今後の日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更もある場合があります。変更があり次第JACLaP WIRE等でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成 20 年

7 月 18 日(金) 日本臨床検査専門医会設立 25 周年記念行事 (セミナー, 式典)

開催会場: 東京ガーデンパレス (東京)

9 月 5 日 (金) 第 4 回常任幹事会

日本臨床検査医学会事務所 12 時から 15 時

11 月 27 日(木) 第 5 回常任・第 3 回全国幹事会

名古屋国際会議場

11 月 27 日(木) 第 32 回日本臨床検査専門医会総会および講演会

開催会場: 名古屋国際会議場 (名古屋)

12 月 19 日 (金) 第 6 回常任幹事会

日本臨床検査医学会事務所 12 時から 15 時

【各種セミナー報告】

第 70 回教育セミナー

平成 20 年 4 月 19 日、村田満教授の担当で、慶応義塾大学にて行われた。

第 71 回教育セミナー

平成 20 年 5 月 11 日、木村聡准教授の担当で、昭和大学医学部にて行われた。

第 72 回教育セミナー

平成 20 年 5 月 24 日、宮地勇人教授の担当で、東海大学医学部にて行われた。

第 5 回GLMセミナー

平成 20 年 5 月 25 日、宮地勇人教育研修委員長の担当で、都市センターホテルにて行われた。

* 本年度開催の教育セミナーは全て終了いたしました。

来年度の教育セミナーについては 11 月以降に内容が決定する予定です。

決まり次第、会員の先生方に通知する予定ですが、それ以前のお問い合わせに対してはご回答できませんので、ご了承ください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIREなど電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。

勤務先（所属）、住所、名称の変更およびE-mail addressの変更がありましたら、必ず事務局までお知らせください。

当会ホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAXあるいはE-mailでお送り下さい。

【今年度会費振り込みのお願い】

平成20年度会費振込用紙を2月初旬にお送りしました。まだ会費納入がお済みでない先生は振込をお願いします。すでに先生のお名前が記入されていますので、勤務先、所属、住所、E-mail addressの変更がありましたら通信欄にご記入をお願いいたします。なお、振込用紙をなくされた先生は、

郵便振込口座：00100-3-20509 日本臨床検査専門医会事務局

までお願いいたします。 年会費1万円

また、ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局までE-mailまたは電話 FAXでお問い合わせください。

今年度より過去2年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送、JACLaP WIREの発信を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

===== << JACLaP WIRE >> =====

【新規掲載項目】

平成20年6月1日より適用

血液化学検査

MDA—LDL

（準用区分先：D007 「29」） 区分：E-3

保険点数：200点

製品名：酸化LDLエライザ「第一」

製造販売元：積水メディカル株式会社 Tel 03-3272-0674

測定方法：酵素免疫測定法（ELISA） 定量検査

包装単位：96テスト／1キット（1キット当たりの測定可能検体数 48検体）

結果が出るまでの時間：約9時間

自動化：不可

検体：血清

同時再現性：15%以下

測定範囲：10～330 U/L

参考診断カットオフ値：110U／L

【特徴】

酸化LDLは酸化の変性を受けたLDLの総称で、動脈硬化の形成・進展に関与しており、代表的な酸化LDLとしては、マロンジアルデヒド修飾LDL（MDA-LDL）が知られている。

今回収載される方法は、2種類の特異的なモノクローナル抗体を用いた酵素免疫測定（ELISA）を用いて、血清中のMDA-LDL（酸化LDL）濃度を測定するものである。

糖尿病（DM）患者、とくに冠動脈疾患（CAD）の既往歴がある患者では、将来の冠動脈イベント発症リスクが高いとされている。実際に、DM、CAD患者において血清中MDA-LDL値との関係を検討した結果、DMを合併したCAD患者では、コントロール群、DMあるいはCADだけを有する患者に比較し、MDA-LDL値は有意に上昇していた。次いで冠動脈疾患（CAD）既往歴のあるDM患者で検討を行ったところ、カットオフ値を110U/Lとした場合、カットオフ値以上の患者の心イベント発症率は45%であり、カットオフ値未満の心イベント発症率8%に比較して有意に高いイベント発症率であった。また、経皮的冠動脈再建術（PCI）治療を行ったDM患者における検討では、再狭窄群は非再狭窄群に比べMDA-LDLが有意な高値を示し、カットオフ値未満の患者に比べ、相対危険度5.3で再狭窄のリスクが高かった。

以上より、血清中のMDA-LDL値はCAD既往歴のあるDM患者において、CAD再発に関する予後予測のマーカーとして、また、DM合併患者におけるPCI治療後の再狭窄の予測マーカーとして、優れた有用性を有することが明らかになった。

血清中MDA-LDL測定によって冠動脈再狭窄、CADハイリスクの患者抽出が容易となり、早期診断により治療の重点化を行うことが可能となる。

【保険請求上の注意】

ア MDA-LDLは、区分「D007」血液化学検査の「29」のレムナント様リポ蛋白（RLP）コレステロールに準じて算定する。

イ MDA-LDLは、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で血清中のMDA-LDL（酸化LDL）を測定する場合に3月に1回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈再建術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前1回に限り算定できる。

平成20年6月1日より適用

穿刺液・採取液検査

涙液中総IgE定性

(準用区分先：D004 「6」) (区分E-3)

保険点数：100点 判断料：34点

製品名：アレルウォッチ 涙液IgE

検査目的：涙液中の総IgEの測定

製造販売元：日立化成工業株式会社 TEL 03-5546-9367

測定法：イムノクロマトグラフィー法 定性検査

包装単位：10テスト/1キット

結果が出るまでの時間：約12分 自動化：不可

検体：涙液

同時再現性：陰性検体を5回同時測定したときの結果は5回ともにクラス0（陰性）、表示クラス2（陽性）を示す陽性管理検体を測定したときの結果は5回ともクラス1（弱陽性）または2であった。

測定範囲：5.0~15,000 UA/mL

判定：クラス1（弱陽性）以上を陽性

【特徴】

アレルギー性結膜疾患は、即時型アレルギー反応を原因として発症する角結膜疾患である。慢性化したり症状が改善しても再燃を繰り返し、治療が長期化するために早期の適切な治療が重要である。これまで確定診断には、結膜分泌物の顕微鏡検査による結膜局所でのアレルギー反応の証明、血清中特異的IgE抗体検査などが行われてきた。結膜分泌物の顕微鏡検査では検体採取で患者に苦痛を与え、塗抹・染色操作が煩雑で確定診断に至らない割合も多く、また、血清中特異的IgE抗体検査は採血を必要とし、有用性も低いことから、多く症例では症状の発現時期、臨床所見などにより診断が行われている。

今回収載されるアレルギー性結膜炎に対する検査は、涙液中のIgE量を測定するキットである。本法はサンドイッチ法に基づく免疫クロマトグラフィー法を原理としており、患者の下側結膜円蓋からシルマー紙（通常の涙液量測定用の5×35mmの濾紙）を用いて涙採を取液し、形成された金コロイド標識ヒトIgE抗体-IgE-金コロイド標識抗ヒトIgE抗体複合体を、シルマー紙上で視覚的に観察する。

アレルギー性結膜炎の涙液中IgE濃度は、血清中IgE濃度に比較して臨床像と相関が高いといわれてきたが、検査法の容易性のため、これまでは血清中の特異的IgEの測定が行われてきた。臨床診断と本法との陽性一致率は73.6%であり、血清総IgEとの陽性一致率34.7%に比較し、高い一致率が得られている。また、本法と血清総IgEとの陽性一致率は91.4%、陰性一致率は50%であり、血清特異的

IgEとの陽性一致率は78.3%、陰性一致率は75.0%であった。臨床診断と本法との陽性一致率を結膜炎の病型毎にみると、季節性アレルギー性結膜炎63.7%、通年性アレルギー性結膜炎63.3%、急性角結膜炎91.7%、春季カタル100%、巨大乳頭性結膜炎78.8%であり、対照眼では陰性一致率100%であった。1型アレルギーであるアレルギー性結膜炎等より、増殖性変化等を伴う結膜炎である春期カタルやコンタクトレンズ使用にともなう巨大乳頭性結膜炎などとの一致率が高い傾向が認められた。

【保険請求上の注意】

ア 涙液中総IgE定性は、区分「D004」穿刺液・採取液検査の「6」の子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼに準じて算定する。

イ 涙液中総IgE定性は、アレルギー性結膜炎の診断の補助を目的として判定した場合に月1回に限り算定できる。

(文責：帝京大学 宮澤 幸久)

=====

JACLaP WIRE No.107 (2008年6月3日発行)

☆発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

☆編集：JACLaP WIRE編集室 編集主幹：今福裕司

福島県立医科大学臨床検査医学

TEL:024-547-1350・FAX:024-548-6016

☆本WIREの記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先

uys-com@umin.ac.jp

☆日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclp.org

☆日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

☆JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名、2. 現行登録アドレスと3. 変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jpまで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
